

【 概 要 】

平成22年度 民間住宅ローン利用者の実態調査
【民間住宅ローン利用者編】（第3回）

1. 調査の概要

調査対象期間(平成22年11月～平成23年2月)に民間住宅ローンを借入された方を対象とし、利用された住宅ローンの金利タイプ別や住宅ローン選びに関する事項について、インターネットによるアンケート調査を実施(2/16～2/28)し、その結果を取りまとめたものである。回答数:923件。

2. 調査結果の主なポイント

(1) 「全期間固定型」利用割合は24.6%に増加

- ・「全期間固定型」は、今回の調査対象期間(平成22年11月から平成23年2月)を通しての利用割合は24.6%(前回調査:23.8%)に増加している。
「変動型」の利用割合は、今回の調査対象期間を通しての割合が45.8%(前回調査:47.3%)に減少している。<p2>
- ・年齢別にみると、20歳代、30歳代で「全期間固定型」利用割合は、増加している。<p5>
- ・世帯年収別にみると、「全期間固定型」のうちフラット35の利用割合が、400万円以下の層で大幅に増加している。<p6>
- ・今後1年間の住宅ローン金利見通しについては、「現状よりも上昇する」が前回と比べ増加し、「ほとんど変わらない」が減少している。<p9>

(2) 住宅ローン選択の決め手は、圧倒的に“金利の低さ”

- ・住宅ローンを選んだ決め手は、「金利が低いこと」とする回答が65.5%と圧倒的に多い。次いで、「繰上返済手数料が安かったこと」「住宅・販売事業者(営業マン等)に勧められたから」の順となっている状況に変化はない。<p14>